

2024 年度 所員業績リスト

■石黒格

<学会発表>

石黒格 (2024). 最小相互作用と向社会的行動 第 65 回日本社会心理学会大会オンライン発表

石黒格 (2024). 社会環境の効果をどうやって捉えるか 国際開発学会大会第 35 回全国大会口頭発表

石黒格 (2025). 犬が生み出す紐帯とも呼べぬ社会関係 第 78 回数理社会学会大会ポスター発表

■氏家悠太

<論文発表>

Suzuki, M., Ujiie, Y., & Takahashi, K. (2024). The Effects of Adding Emojis to Text Messages on Emotional Impressions and Recollection of Textual Content. Japanese Psychological Research, jpr.12536. <https://doi.org/10.1111/jpr.12536>

Itoi, C., Ujiie, Y., Ooishi, Y., & Kashino, M. (2024). The relationship between subjective difficulty in interoceptive processing and accuracy of heartbeat perception in autistic individuals. Discover Mental Health, 4(1), 13. <https://doi.org/10.1007/s44192-024-00065-6>

<学会発表>

Ujiie & Takahashi, (2024). The effect of face and language familiarity in the perception of audiovisual speech synchrony. The 46th European Conference on Visual Perception (ECVP2024).

Suzuki, Ujiie & Takahashi. (2024). Facial Identification in Peripheral Vision and Flashed Face Distortion Effect. The 46th European Conference on Visual Perception (ECVP2024).

糸井千尋・氏家悠太・柏野牧夫. (2024). 日本語版 Misophonia Questionnaire (MQ-J) の信頼性・妥当性の検討, 第 15 回多感覚研究会, 2024 年 11 月

糸井千尋・氏家悠太・柏野牧夫. (2024). 日本語版 Misophonia Questionnaire (MQ-J) の信頼性・妥当性の検討, 日本心理学会第 88 回大会 一般研究発表, 2024 年 9 月

■江川隆男

<著作>

江川隆男『内在性の問題』、月曜社、2024 年 4 月、全 560 頁。

■大石幸二

<論文>

竹森亜美・大石幸二 (2025). 高機能自閉スペクトラム症児における身体感覚の主観的評価に関する一考察—動作模倣課題を用いた介入の効果検証— 星美学園短期大学研究論叢, 57, 17-30. (2025 年 2 月 28 日発行) *査読なし

大石幸二・金田望来・木下愛・金谷裕香・佐藤亜美 (2025). 障害福祉人材の資質向上に及ぼす「省察」の効果に関する文献的検討 言語文化学会論集, 61, 331-345. (2025 年 2 月 22 日発行) *査読あり

Kouji Oishi, Tomohiko Deguchi, Kotaro Wakai, Ruriko Fujishima, Rina Shinjo, and Toru Iijima (2024). Promoting Social Skills among Young Children with both Autism Spectrum Disorder and Intellectual Disability Using a Contingent Pairing Intervention 言語文化学会論集, 60(1), 229-239. (2024 年 6 月 30 日発行) *査読あり

和田恵・大石幸二 (2024). 文脈分析課題を用いた児童による心情推察の検討—命題的心理化の方略に焦点を当てて— 人間福祉学研究, 23(2), 25-33. (2024 年 4 月 30 日発行) *査読あり

<著書> (翻訳を含む)

大石幸二編著 (2024). 動画で学ぶ障害福祉入門—サービスの質を向上させるための理論と実践— 学苑社. (2024 年 7 月 23 日刊行予定)

<学会発表>

大石幸二・和田恵（2024）．反応抑制を高める社会的報酬を伴う介入技法の確立——実行機能の不全が疑われる児童における行動アセスメントの結果整理—— 日本特殊教育学会第62回大会（福岡教育大学：福岡国際会議場），P2-45.

須藤邦彦・松岡勝彦・北村拓也・山本麻衣・植田隆博・大石幸二（2024）．教育・福祉分野の若手指導者を支える間接支援について考える 日本特殊教育学会第62回大会（福岡教育大学：福岡国際会議場），S7-6.

渡邊孝継・坂本真季・荻野梨紗子・大石幸二（2024）．自閉スペクトラム症児の言語コミュニケーション促進による対人ストレス緩和効果の検証 日本特殊教育学会第62回大会（福岡教育大学：福岡国際会議場），P6-56.

荻野梨紗子・大石幸二（2024）．自閉スペクトラム症児の身体活動を含むゲーム場面における伝達行動の促進—文字カードによるプロンプト・フェイディングを通じて— 日本特殊教育学会第62回大会（福岡教育大学：福岡国際会議場），P6-57.

大石幸二（2024）．学校長の学校経営を支える遠隔行動コンサルテーションの効果—ある小規模公立小学校におけるメールを介した後方支援実践に関する事例検討— 日本人間関係学会第32回全国大会（高知大学教育学部），20-21.

岩崎あすみ・大石幸二・梅永雄二（2024）．発達障害の職場定着と自己理解の関連性—就労支援者への面接調査から— 日本発達障害学会第59回研究大会（國學院大学たまプラーザキャンパス），P1-12.

<取材・報道>

大石幸二（2024）．学校コンサルテーション Part 1——事例を中心とするコンサルテーション—— 特別支援教育研究（東洋館），6月号，33-35.

大石幸二（2024）．学校コンサルテーション Part 2——組織を中心とするコンサルテーション—— 特別支援教育研究（東洋館），7月号，33-35.

■小口孝司

<学術論文>（査読あり）

中島実穂・小口孝司（2024）．変革的旅行経験の研究動向と今後の課題 心理学評論，

67(4), 395-413.

<国際学会発表> (査読あり)

Oguchi, T., Totoki, R., & Kawakubo, A. (2024). Dialects Drive Destinations: The effect of dialects in PR videos on the intention to visit Kyoto. *APacCHRIE conference*, Soul, Korea.

Kawakubo, A. & Oguchi, T. (2024). Missed-out experience enhances revisit intention. 29th *Asia Pacific Tourism Association Conference*, Macau, China.

Cheung, C., Lo, A., & Oguchi, T. (2024). Revolutionizing Learning: The intersection of Education Technology, *ASAIHL (The Association of Southeast Asian Institutions of Higher Learning) Conference 2024*, Tokyo, Japan.

<国内学会発表> (査読なし)

小口孝司, 川久保惇, 宮川えりか, 中島実穂 (2024). ツーリズムの心理的効果：基礎的知見と今後の展望 <ワークショップ> 日本観光研究学会第39回全国大会（大阪成蹊大学, 大阪）

川久保惇・小口孝司 (2024). リカバリー経験が創造的行動および職業生活に及ぼす影響 日本心理学会第88回大会（熊本城ホール, 熊本）

中島実穂・小口孝司 (2024). 旅行経験が自己変革をもたらすメカニズム—コレスポネンス分析による検討— 日本心理学会第88回大会（熊本城ホール, 熊本）
【日本心理学会 優秀発表賞 受賞】

<書籍>

Chien, P. M., Ritchie, B. W., Maruyama, N., Oguchi, T. & Kock, F. (2024) Understanding intergroup conflict between residents and tourists: a social identity perspective. In F. Kock, A. Lindgreen & S. Markovic (Eds.), *The Research Handbook on Tourism, Complexity and Uncertainty* (pp. 8-26). Edward Elgar Publishing.
<https://doi.org/10.4337/9781802203486>

小口孝司 (2024). キャリア形成に活かす心理学 誠信書房（監修）

小口孝司 (2024). “観光心理学”って何？「旅」が個人の能力を高める？社会をも活性化する「旅」の心理学 大学学部研究会講義ダイジェスト2025年度版 182-183. 東進本部

<その他> (査読なし)

小口孝司 (2024). 旅のリフレッシュ効果 くらし+one オオツカ・プラスワン, 32, 2-5.

小口孝司 (2024). 今年の夏は、旅を 120%楽しもう！旅のリフレッシュ効果 (前編)

https://test.potofu.co.jp/op1/shop/pages/kurashi_plus1_240613.html

小口孝司 (2024). 今年の夏は、旅を 120%楽しもう！旅のリフレッシュ効果 (後編) 旅上手になるコツとは

https://test.potofu.co.jp/op1/shop/pages/kurashi_plus1_240627.html

小口孝司 (2024). 圧倒される体験がもたらす旅の効能 FUTURE DESIGN, 75, 10-12.

小口孝司 (2024). 旅行はメンタルヘルスに良い影響？メンタルヘルスツーリズム ABEMA ヒルズ (取材協力、インタビュー) (10月7日)

https://abema.tv/video/episode/89-71_s75_p344

■温文

<論文発表> (査読あり)

Oi, H., Wen, W., Chang, A. Y., Uchida, H., & Maeda, T. (2024). Hierarchical Analysis of the Sense of Agency in Schizophrenia: Motor Control, Control Detection, and Self-attribution, Schizophrenia, 10:79. doi: 10.1038/s41537-024-00512-x

Wen, W., Mei, J.*, Aktas, H.*, Chang, A. Y., Suzuishi, Y., & Kasahara, S. (2024). Control over self and other's face: Exploitation and exploration. Scientific Reports, 14, 5473. doi: 10.1038/s41598-024-66316-2

<学会発表>

Suzuishi, Y., Chang, A., Hidaka, S. and Wen., W.: Fast sensory attenuation and slow sensory enhancement: A study on self-generated touches using the SSSEP. The 27th Annual Meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (ASSC24), Tokyo July, 2024.

"Sense of agency in interaction," Workshop on "The robotics, psychology and neuroscience of body augmentation", 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation in PACIFICO Yokohama, May, 2024.

■ カヴァナー・クリストファー

<論文発表>

Misiak, M., Kavanagh, C., Muzzulini, B., & Whitehouse, H. (2025) 「Bonding through adversity: Effects of Brexit and COVID-19 lockdown on identity fusion and pro-group behavior」『Political Psychology』, オンライン先行版, 1-20 頁.
<https://doi.org/10.1111/pops.70024>

Ebner, J., Kavanagh, C., & Whitehouse, H. (2024) 「Measuring socio-psychological drivers of extreme violence in online terrorist manifestos: an alternative linguistic risk assessment model」『Journal of Policing, Intelligence and Counter Terrorism』, 19(2), 125-143 頁.
<https://doi.org/10.1080/18335330.2023.2246982>

Ebner, J., Kavanagh, C., & Whitehouse, H. (2024) 「Assessing Violence Risk among Far-Right Extremists: A New Role for Natural Language Processing」『Terrorism and Political Violence』, 36(7), 944-961 頁.
<https://doi.org/10.1080/09546553.2023.2236222>

Irving, B., Kavanagh, C., Fischer, R., & Yuki, M. (2024) 「Dance for the dead: The role of top-down beliefs for social cohesion and anxiety management in naturally occurring collective rituals」『PLOS ONE』, 19(3), e0291655.
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0291655>

<書評>

Kavanagh, C. (2023) 「Beyond the border: advancing the study of Catholic identities and orthopraxic religion in Southern and Northern Ireland」『Religion, Brain & Behavior』, 1-3 頁.
<https://doi.org/10.1080/2153599X.2023.2262549>

<学会発表・講演>

Kavanagh, C. (2024 年 6 月 30 日) 「Enhancing Methodological Rigour in the Cognitive (& Evolutionary) Science of Religion」第 9 回 国際認知・進化宗教科学会 (IACESR) 大会, オックスフォード・ブルックス大学 (イギリス・オックスフォード)

Kavanagh, C. (2024 年 6 月 29 日) 「Cross-Cultural Ritual Intuitions and Collective Action Problems: Preferences in Four Countries」第 9 回 国際認知・進化宗教科学会 (IACESR)

大会, オックスフォード・ブルックス大学 (イギリス・オックスフォード)

Kavanagh, C. (2024 年 2 月 22 日) 「From Charisma to Conspiracy: Traits of Modern Secular Gurus」 レイクランド大学ジャパン・レクチャーシリーズ, 東京

Kavanagh, C. (2024 年 2 月 1 日) 「From Shamans to Secular Gurus: Ideology, Authority, and Influence in Contemporary Society」 テンプル大学ジャパン現代アジア研究所・レクチャーシリーズ, 東京

<その他> (関連活動)

Kavanagh, C. (2023 年 7 月 29 日) 「Uganda Research Findings Report」 宗教と信教の自由・リーダーシップネットワーク コミュニティ報告ワークショップ, ウガンダ・トロロ

Kavanagh, C. (2023 年 7 月) 「The rise of secular gurus in an age of conspiracy theories」 テンプル大学ジャパン現代アジア研究所・レクチャーシリーズ, 東京

■加藤千恵

<論文発表> (査読あり)

加藤千恵 (2024) . 「任脈・督脈と煉丹術の結合をめぐって」、『東方宗教』第 143 号、2024 年 6 月 10 日、23-44

<学会発表>

加藤千恵 (2024) . A Study on the Connection Between the Ren Du Meridian System and Internal Alchemy. Harvard Daoist Studies Symposium: The Body, Gender, and Self-cultivation in Daoism
(2024 年 4 月 25 日—26 日 ハーバード大学)

加藤千恵 (2024) . 「煉丹術の常識に対するいくつかの疑問について——鉛汞説、小周天説、外丹から内丹へ」 公開シンポジウム「内丹とは何か？—道教と中国社会」 (2025 年 2 月 22 日 国際基督教大学)

■金子彩子

<論文> (査読あり)

Kaneko, A., Atsumi, T., and Ide, M. (2024) Temporal resolution relates to sensory hyperreactivity independently of stimulus detection sensitivity in individuals with autism spectrum disorder. Perception.

<学会発表>

金子彩子・井手正和 (2024). 発話速度に対する同調の生起：成人の自閉スペクトラム症者と定型発達者における検討，日本認知心理学会第22回大会，2024年6月2日．

■篠崎誠

2024年

(映画上映と講演、対談)

早稲田大学「映像制作実習」上映会、1月20日、大隈講堂で学生の短編映画上映後に、是枝裕和氏、土田環氏らと公開講評会。

映画『SHARING』1月27日、墨田区菊川の映画館 Stranger にて上映。上映後講演。

映画『共想』『ACTION!』(ともに監督作) 1月28日、墨田区菊川の映画館 Stranger にて上映。

映画『蛇の道』(黒沢清監督作) 6月29日、角川シネマ有楽町にて上映後に黒沢清氏と対談。

映画人と語る VOL.2 映画監督黒沢清氏を迎えて 7月27日 13:30~18:30 タッカードホールにて、イベントの企画立案、コーディネートおよび黒沢氏と対談。

映画『ACTION!』(監督作) 8月10日、11日、墨田区菊川の映画館 Stranger にて上映。上映後講演。

映画『Cloud』(黒沢清監督作) 10月27日ユナイテッド・アクアシティお台場にて上映。上映後に黒沢清氏と対談。

映画『SHARING』(監督作) ならびに『ACTION!』(監督作) 他短編監督作3作、2025年11月9日池袋・新文芸座にて上映。上映後に講演。

映画『SHARING』(監督作) および『おかえり』(監督作)、12月14日~20日、韓国・釜山シネマテークの特集上映「Rikkyo New Waves and the actor Yakusho Koji」内で複数回上映。

<執筆・著作>

著作『ライナーノーツ』(コムテッグ刊) 2025年5月11日発行

著作『続 荒野のライナーノーツ』(コムテッグ刊) 2025年11月19日発行

■砂連尾理

<公演>

タイトル：FOuR DANCERS vol.296～dance performance night～

出演：野村誠（音楽）、足立智美（ボイスパフォーマー）砂連尾理（ダンス）、上田假奈代（詩人）

日時：9月13日 20時30分～21時

会場：UrBANGUILD Kyoto

主催：UrBANGUILD Kyoto

タイトル：《とつとつダンス》パフォーマンス公演 in 大阪

構成・演出：砂連尾理

出演：砂連尾 理（ダンサー・振付家）、神村 恵（ダンサー・振付家）、西岡 樹里（ダンサー）、大迫 健司（ダンサー・俳優）、石田 智哉（映画監督）ほか

日時：1月25日（土）①14:00開演 ②18:00開演

1月26日（日）③14:00開演

会場：アートエリア B1

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

共催：一般社団法人アートエリアビーワン

企画制作：一般社団法人 torindo

広報・制作協力：NPO 法人 DANCE BOX

タイトル：Choreographers 2024一次代の振付家によるダンス作品上映&トーク

日時：2025年2月7日、8日

上演作品：「男時女時」

振付・演出：砂連尾理＋寺田みさこ

出演：長野里音、関口晴、カナール ミラン 波志海

会場：りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館〈スタジオB〉

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

主催：NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）

共催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

<展覧会＋パフォーマンス>

タイトル：山形ビエンナーレ 2024「ひとひのうた」

まちのおくゆきプロジェクト「ひとひのパレード ～茂吉と空と女将のうた～」

構成・演出：砂連尾理（振付家／ダンサー）

参加アーティスト

砂連尾理（振付家／ダンサー）、菊地将晃（ダンサー）、佐藤有華（振付家／ダンサー）、横田勇吾（ストリートダンサー）、加藤由美（ダンサー）、兼子京子（ダンサー）、中村大史（音楽家／作曲家）、かわぐちシンゴ（シンガーソングライター）、池上恵一（マッサージ芸術家）、管啓次郎（詩人／明治大学教授）、「まちのおくゆき ～ことばとからだの温泉ダンスワークショップ～」市民参加者、ほか

ディレクター＝アイハラケンジ（アートディレクター／グラフィックデザイナー）

アシスタントディレクター＝三浦晴子（フォトグラファー／キュレーター）

制作・コーディネーター＝武田和恵（福祉とアートのコーディネーター）、岩中可南子（アートコーディネーター／編集者）

令和6年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業：温泉地を舞台にした持続可能な「アート&ウェルビーイング」人材育成プログラム成果発表

<パフォーマンス+ワークショップ+トーク+アート遠足>

タイトル：美術館を遊ぶ、からだ、おとと、びじゅつの時間

日時：2025年3月20日～23日

会場：熊本市現代美術館内、塚原古墳公園

① 3月20日 インTRODakショントーク&パフォーマンス「問題行動ショー」

木版ワークショップ「木版画の音を録る」(by 山本聖子+野村誠)

② 3月21日 ダンスワークショップ「Here&There」(by 佐久間新+砂連尾理)

パフォーマンス「ワークショップを重ね刷りする」「タレルへのエコー」

③ 3月22日 アート遠足（塚原古墳公園）

④ 3月23日 クロージングトーク

参加アーティスト：問題行動トリオ〈佐久間新（ジャワ舞踊家）、砂連尾理（振付家、ダンサー）、野村誠（作曲家）〉、山本聖子（アーティスト）

主催：熊本市現代美術館

<ワークショップ>

タイトル：とつとつダンスワークショップ in Tokyo

講師：砂連尾理、神村恵

日時：2024年7月21日（日）

①10:30～12:00 一般向け

②13:00～14:30 ダンサー・パフォーマー向け

会場：ノアスタジオ吉祥寺

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

タイトル：とつとつダンスワークショップ in Singapore

講師：砂連尾理、神村恵

日時：2024年8月11日～18日

- ① 8月12日 現地アーティスト向け 会場：Apsaras Arts
- ② 8月13日～15日 高齢者向け 会場：THK Active Ageing Centre
- ③ 8月18日 現地アーティストとのフィードバック 会場：Aliwal Arts Centre

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

タイトル：とつとつダンスワークショップ マレーシアとのオンラインワークショップ

講師：砂連尾理、神村恵

日時：

- ① 2024年10月12日 15時～18時
- ② 11月23日 15時～18時
- ③ 12月7日 11時～13時

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

タイトル：とつとつダンスワークショップ in 鹿児島

講師：砂連尾理、神村恵

日時：2024年10月31日～11月2日

- ① 10月31日 高齢者向け 会場：LL さねかた、あんまあの家
- ② 11月1日 高齢者向け 会場：LL さねかた、あんまあの家
- ③ 11月2日 一般向け 会場：妙行寺門徒会館

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

タイトル：とつとつダンスワークショップ in Malaysia

講師：砂連尾理、神村恵

日時：2025年1月3日～8日

- ④ 1月4日 Bagan Specialist Centre の高齢者向け 会場：Flamingo Hotel
- ⑤ 1月5日 Bagan Specialist Centre の高齢者向け 会場：Flamingo Hotel
- ⑥ 1月6日 ペナン在住の日本人 会場：ココナツクラブ
- ⑦ 1月7日 認知症者やその家族、医療・介護スタッフ向け 会場：Bagan Specialist Centre

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

※とつとつダンス事業は全て文化庁「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

『日本⇄アジア太平洋 国際交流事業～認知症者・高齢者と介護者をつくる

「アートのような、ケアのような 《とつとつダンス》」』の委託事業。

タイトル：動きと表現・時々ミングルーらいおんはーと佐久穂×さくほミングル

講師：大村麻弥（音楽）、砂連尾理（ダンス）、竹田栄次（ダンス）

日時：7月20日、9月28日、11月10日 10:00~12:00

会場：らいおんはーと佐久穂

主催：さくほミングル

支援：信州アーツカウンスル、文化庁令和6年度 文化芸術創造拠点形成事業

タイトル：創造的鑑賞入門 GAKU×マイナビアートスクエア 「自分と一緒に居る方法」

講師：砂連尾理、

日時：7月28日 10:00~14:00

会場：PARCEL

主催：MYNAVI ARTSQUEA

共催：GAKU

タイトル：釜ヶ崎芸術大学 2024「釜音ことばとからだ」

講師：砂連尾理（振付家）、上田假奈代（詩人）

指揮：中川眞（音楽学者）

日時：9月13日 15:00~18:00

会場：太子老人憩いの家

主催：特定非営利活動法人 こえとことばとこころの部屋（ココルーム）

タイトル：日常を見限らない バランスのワークショップー身体発見ダンス

講師：砂連尾理（振付家）

日時：10月5日、6日（日）14:30~17:30

会場：三鷹天命反転住宅 イン メモリー オブ ヘレン・ケラー

主催：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

協力：荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所

後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

<報告会+上映会+トーク>

タイトル：とつとつダンス 2024 年度活動報告会

日時：2025年2月15日（土）~16日（日） 12:30~20:00

会場：水性-suisei-

トーク：砂連尾理（ダンサー・振付家）、久保田テツ（映像作家）、遠藤幹大（映画監督）、神村恵（ダンサー・振付家）、大迫健司（ダンサー・俳優）、西岡樹里（ダンサー）、マイケル・チェン（俳優、※オンライン）、セシリア・チャン（老齡学者・コーディネーター ※オンラ

イン)

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

企画制作：一般社団法人 torindo

協力：特別養護老人ホームグレイスヴィルまいづる、合同会社 UD ラボ、あんまあの家、LL さねかた、Dementia Singapore、Dementia & Co、Thye Hua Kwan Care Centre、Passion and Purpose Asia、Bagan Specialist Centre(Eldercare Centre)、Okui Lala、豊平聡美、久貝京子

<企画協力+公演アドバイザー>

タイトル：《くにたち富士見台ものがたり～バーチャル富士見台が現れた！～》

日時：2025 年 2 月 21 日（金）19：00、2 月 22 日（土）17：00

会場：くにたち市民芸術小ホール

ファシリテーター：木村玲奈（ダンサー、振付家）、大園康司（ダンサー、振付家、舞台音響家）

企画協力・アドバイザー：砂連尾理（ダンサー・振付家）

主催：公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団

助成：一般財団法人自治総合センター

<トークイベント>

タイトル：濱口竜介『他なる映画と』刊行記念・他なる映画のからだたち

日時：7 月 25 日 18:00~21:00

会場：アテネ・フランセ文化センター

トーク：濱口竜介（映画監督）、砂連尾理（ダンサー・振付家）、平倉圭（芸術学）

主催：éditions azert

共催：アテネ・フランセ文化センター

<書籍・寄稿>

砂連尾理「ズラす身振り、あわせの振舞い」『コメント通信通信 48』2024 年 7 月 31 日、pp-8~9

砂連尾理「私が映画を見るということ」『群像』11 月号（講談社）2024 年 10 月 7 日、pp-251~253

■ 白井述

<論文>

Imura, T., Suzuki, C., Kasahara, M., Sasaki, K., Yamada, Y., & Shirai, N. (2024).

Effects of cluster size on tryphobic discomfort in children aged 4-9 years.

Scientific Reports, 14, 16528, 1-9. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-67002-z>
(査読あり)

白井述 (2024) タブレット端末を使用したオンデマンド遠隔方式による視覚発達実験の試み.
心理学評論, 67 (1), 3-15. (査読あり)

Yamanaka, N., Otsuka, Y., Kato, M., & Shirai, N. (2025). The development of Mooney face perception in 6- to 11-month-old infants. *Journal of Experimental Child Psychology*, 253:106199, 1-11. <https://doi.org/10.1016/j.jecp.2025.106199> (査読あり)

<学会発表>

Yamanaka, N., Otsuka, Y., Kato, M., & Shirai, N. (2024). The Development of Mooney face Perception in 6-11-month-old infants. 46th European Conference on Visual Perception, Aberdeen, Scotland. Aug. 25-29 2024

Imura, T., Kanamori, Y., Ueda, Y., & Shirai, N. (2024). Perception of emotional states based on eye regions in 5- to 10-year-olds and adults. 46th European Conference on Visual Perception, Aberdeen, Scotland. Aug. 25-29 2024

中山晏寛・吳詩源・白井述・伊村知子・田村秀希・中内茂樹・南哲人 (2024) グレア錯視の発達の特性：頭部運動やまばたきに頑健な瞳孔計測パラダイム．日本視覚学会 2024 年夏季大会，日本女子大学，2024 年 9 月 14～16 日

真保陸斗・山中七菜子・村田佳代子・白井述 (2024) 乳児期のシーン整合性効果について，日本基礎心理学会第 43 回大会，人間環境大学松山道後キャンパス，2024 年 11 月 29～12 月 1 日

宮崎将光・白井述 (2024) 児童期におけるフラッシュラグ効果—成人との比較から，日本基礎心理学会第 43 回大会，人間環境大学松山道後キャンパス，2024 年 11 月 29～12 月 1 日

山中七菜子・小林恵・白井述 (2024) 乳児期における境界拡張の生起特性の検討，日本基礎心理学会第 43 回大会，人間環境大学松山道後キャンパス，2024 年 11 月 29～12 月 1 日

江口萌々・浅見徳哉・西野智博・山中七菜子・白井述・宮脇陽一 (2025) 深層畳み込みニューラルネットワークから生成される階層的画像特徴に対する 1 歳児の注視行動，日本視覚学会 2025 年冬季大会，工学院大学新宿キャンパス，2025 年 1 月 22 日～24 日

中山菜花・小泉直也・田中恒彦・伊村知子・白井述・小林恵（2025）虫画像が喚起する情動に対する空中像提示の影響．電子情報通信学会 総合大会，2025 年 3 月 24 日～28 日

渡邊万泉佳・小林恵・小泉直也・伊村知子・白井述・田中恒彦（2025）空中像提示が 1 歳～3 歳児の行動に及ぼす影響の検討．電子情報通信学会 総合大会，2025 年 3 月 24 日～28 日

<シンポジウムなど>

砂連尾理・白井述（2024）ワークショップ II「視覚変換経験を通じたダンスの実験ワークショップ」，立教大学心理芸術人文学研究所シンポジウム 舞台におけるヴァーチャル，立教大学池袋キャンパス，2024 年 11 月 17 日

日本視覚学会 2025 年冬季大会実行委員（企画・司会：白井述）（2025）シンポジウム「感覚知覚の構築と変容」3 感覚知覚の発達：乳幼児期を超えて，日本視覚学会 2025 年冬季大会，工学院大学新宿キャンパス，2025 年 1 月 22 日～24 日

<寄稿>

白井述（2024）「夫婦それぞれのワークライフバランス」の間のバランス．日本心理学会（編）心理学ワールド 第 107 巻，33-33．【依頼原稿】

■ 滝浪佑紀

<論文>

滝浪佑紀「小津安二郎作品における認めることの主題——『晩春』と『麦秋』の比較」『立教映像身体学研究』12号、2025年、25-44頁。

<新聞書評>

滝浪佑紀、前田啓介著『おかしゅうて、やがてかなしき——映画監督・岡本喜八と戦中派の肖像』、『京都新聞』2024年4月27日（2024年3月に他紙に掲載されたものと同じ書評）。

■ 田崎英明

<著書>

田崎英明

間隙を思考する 以文社 （2024 年 12 月 20 日刊行）

■田中志帆

<論文> (査読あり)

Tanaka, S., & Sato, A. (2024). Elementary Schoolchildren's Perspectives in the Draw-a-Person-in-the-Rain Test: Open-Ended Items and Self-Assessment of Stress among Japanese Children. *Psychology*, 15(5), 800-824.

<https://doi.org/10.4236/psych.2024.155048>

Tanaka, S. (2024). Burden of COVID-19 infection control among parents with adolescents in relation to healthcare factors. *Discover Psychology*, 4(1), 1-19.

<https://doi.org/10.1007/s44202-024-00321-4>

<学会発表>

田中志帆・名尾典子・篠原道夫・菅沼慎一郎・菅沼真樹・大野麻美・小見山史織・山本玲奈 (2024) COVID-19 による変革とポストコロナ時代—ライフイベント, 生命, そして心— 心理臨床学会第 43 回大会発表論文集, p450.

田中志帆・角田真紀子 (2024) 新型コロナウイルス 5 類移行後の思春期の子を持つ親の抑うつ気分と過食傾向—2020 年から 2023 年についての評定と自由記述からの検討— 日本精神衛生学会第 40 回大会発表抄録集, p33.

<報告>

田中志帆 (2024) COVID-19 感染拡大防止状況下での家族の絆と親子の距離—家族関係円環図式画を応用した検討— こころの健康 39(1), 50.

■都築誉史

<学会発表> (国際学会)

Tsuzuki, T., Takeda, Y., & Tsuzuki, K. (2024). Correlation of numeracy and other individual-difference factors with attraction and compromise effects in multi-alternative decision making. *Society for Judgment and Decision Making Annual Conference 2024*, New York, USA (November 24, 2024). (査読あり)

<学会発表> (国内学会)

都築 誉史・武田 裕司 (2024). 個人差要因が多肢選択意思決定における認知バイアスに及ぼす影響—魅力効果と妥協効果に関する検討— 行動経済学会第 18 回大会, 大阪 (2024 年

12月8日)

根本啓伍・都築 誉史 (2024). ネガティブな反芻がサunkコスト効果への感受性に与える影響 行動経済学会第18回大会, 大阪 (2024年12月8日)

■中島実穂

<論文発表> (査読あり)

Nakajima, M. (2025). The Moderating Effect of Childhood Maltreatment History on the Relationship Between Daily Hassles, Social Support, and Depressive Symptoms Among Japanese Adults: A Prospective Analysis. *Minerva Psychiatry*, 66 (1), 17-28. <https://doi.org/10.23736/S2724-6612.24.02592-2>

Nakajima, M. (2025). The Role of Interpersonal Emotion Regulation Tendencies in the Association Between Maternal Childhood Maltreatment and Social Support in Parenting. *Child Abuse & Neglect*, 160, 107197. <https://doi.org/10.1016/j.chiabu.2024.107197>

中島実穂・小口孝司 (2024). 変革的旅行経験の研究動向と今後の課題. 心理学評論, 67 (4), 395-413 .

Nakajima, M. (2024). The moderating effect of maternal childhood maltreatment on the association between social support and parenting outcomes. *Psychiatry Research Communications*, 4(4), 100198. <https://doi.org/10.1016/j.psycom.2024.100198>

<著書>

丹野義彦(編集代表) 認知臨床心理学—認知行動アプローチの展開と実践— 東京大学出版会, 2024 (担当: 分担執筆, 第12章「自己洞察」執筆)

<学会発表>

○中島実穂・金城光. 「受け入れやすい加齢経験: 加齢経験に関する自由記述と加齢の受容, 主観的感情価の関連」 『日本発達心理学会第35回大会, 』, 4PM2-P-PS08, 東京, 2025年3月.

○Nakajima, M. Impaired Function of Social Support in Parents with Childhood Maltreatment: The Role of Interpersonal Emotion Regulation. Annual convention of

Society for Personality and Social Psychology 2025, , Denver, USA. (February, 2025)

○小口孝司・川久保淳・宮川えりか・中島実穂. ツーリズムの心理的効果：基礎的知見と今後の展望. 第39回日本観光研究学会全国大会, 大阪. 2024年12月7日.

○中島実穂・小口孝司. 「旅行経験が自己変革をもたらすメカニズム—コレスポネンズ分析による検討—」『日本心理学会第88回大会』, 2C-007-PB, 熊本, 2024年9月. ※優秀発表賞受賞

○江川伊織・中島実穂・芳賀彩花. 「労働者のストレス状態の自己理解と対処方略実践を支援する「メンタルトレーニングクラブ B000ST」の効果検証:パイロットスタディ」『産業・組織心理学会 第39回大会』, P33, オンライン開催, 2024年8月.

■原信夫

<書籍>

原信夫・松倉佳子・佐藤ちひろ編著 (2024). 子ども家庭支援論 (第2版). 北樹出版. (2024年5月14日刊行)

■日高 優

<著書 (単著) >

日高 優『日本写真論 近代と格闘した三巨人』(講談社、2024年)。

■前田楓

<論文発表>

前田 楓・橋本博文 (2024). インクルーシブ教育に対する一般教諭の認識 学校心理学研究 23, 205-211. https://doi.org/10.24583/jjspedit.23.2_205 (査読有)

<学会発表>

Maeda, K., Hashimoto, H., & Tanida, S. (2024). The Operation of the Social Exchange Heuristic in the One-Shot Prisoner's Dilemma Game. 3rd International Conference

on Human and Artificial Rationalities 17th-20th Paris, France

Hashimoto, H., Mitsueda, Y., & Maeda, K. (2024). Intuitive cooperation in a one-shot prisoner's dilemma game: Revisiting the social exchange heuristic hypothesis. 3rd International Conference on Human and Artificial Rationalities 17th-20th Paris, France

Maeda, K., Tanida, S., & Hashimoto, H. (2024). Intuitive cooperation across group boundaries in a minimal group paradigm. International Conference on Social Dilemmas, Liden, The Netherlands

Hashimoto, H., Mitsueda, Y., & Maeda, K. (2024). Intuitive cooperation in a one-shot prisoner's dilemma game with gain-loss frames. 20th International Conference on Social Dilemmas, Leiden University, Leiden, The Netherlands

前田 楓 (2024). インクルーシブ教育に対する日本人の消極的態度: 社会・文化心理学的視座にもとづく分析 (小講演) 日本心理学会第 88 回大会 (於: 熊本城ホール)

前田 楓 (2024). 親子間データから考える防災教育の可能性 日本心理学会第 88 回大会 大会企画シンポジウム「災害と避難の心理学」(於: 熊本城ホール)

前田 楓・橋本博文 (2024). 学歴偏重主義は日本においても容認されているか? 能力主義に基づく責任帰属バイアスと大卒・非大卒者に対する印象評価の関連 日本社会心理学会第 65 回大会 (於: 日本大学)

前田 楓・橋本博文 (2024). 因果的説明は学歴に対する責任帰属バイアスを緩和するか 小集団討議実験による態度緩和効果の検討 日本グループ・ダイナミクス学会第 70 回大会 (於: 立教大学)

前田 楓・谷田林士・橋本博文 (2024). 直観的協力行動の意思決定プロセスの分析: 眼球運動測定装置を用いた検討 実験社会科学カンファレンス日第 27 回大会 (於: 同志社大学)

■松永美希

<論文>

Matsunaga, M., Okajima, J., Furutani, K., Kusakabe, N., & Nakamura-Taira, N. (2024).

Associations of rumination, behavioral activation, and perceived reward with mothers' postpartum depression during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study. *Frontiers in Psychiatry*, 15, 1295988.

松永美希・横山知加. (2024). 明日から現場で生かせる, 認知行動療法に基づく周産期メンタルヘルスケアのコツ (前編). *日本周産期メンタルヘルス学会会誌* 10, 53-58.

横山知加・松永美希. (2024). 明日から現場で生かせる, 認知行動療法に基づく周産期メンタルヘルスケアのコツ (後編). *日本周産期メンタルヘルス学会会誌*, 10, 59-64.

篠原侑希・松永美希. (2024). 青年期学生における自伝的記憶の概括化と抑うつとの関連: 自己複雑性からの検討. *立教大学臨床心理学研究*, 17, 5-17.

<翻訳書>

松永美希 第1章 迷信1, 迷信6 佐藤正二・佐藤美幸・佐藤寛監修・監訳 (2024). 「本当は間違っている育児と子どもの発達にまつわる50の迷信」金剛出版

<書評>

松永美希 (2025). 書評 松本智子, 他著『子育て中の臨床心理士が書いた産後ママの「ココロ」に向きあう本-なんとか毎日を乗り切るための認知行動療法』精神療法 51 (1), 105.

<学会発表・シンポジウム>

日本心理臨床学会 第43回大会 自主シンポジウム 078 話題提供「周産期メンタルヘルスの現場で心理職にできること——施設内外の連携・心理的介入・エンパワーメント——」(2024年9月29日, オンライン開催)

日本認知・行動療法学会第50回大会 自主企画シンポジウム 話題提供「認知行動療法に対するマインドフルネス&コンパッションの貢献とこれから」(2024年9月24日, パシフィコ横浜)

河原崎 亜由美・松永 美希・笹川 智子・陳 峻文 (2024). 日本版認知的回避尺度(CAQ-J)の作成および信頼性・妥当性の検討」日本認知・行動療法学会第50回大会ポスター発表(2024年9月23日, パシフィコ横浜)

笠原 あき穂・岡島 純子・松永 美希 (2024). 妊娠期における配偶者によるサポートと産後の抑うつの関係 日本認知・行動療法学会第50回大会ポスター発表(2024年9月23日, パシフィコ横浜) *ダイバーシティ推進研究ポスター賞 金賞受賞

曾野 友樹・松永 美希 (2024) . 青年期における再確認傾向が精神的健康に与える影響
——交換不安および社会的比較経験を含めたメカニズムの検討—— 日本認知・行動療法
学会第 50 回大会ポスター発表 (2024 年 9 月 23 日, パシフィコ横浜)

高須 恵莉・楠本 和彦・松永 美希 (2024) . 月経随伴症状とそれに伴う心の変調の受容過
程の検討—ACT のコアプロセスの視点から— 日本認知・行動療法学会第 50 回大会ポ
スター発表 (2024 年 9 月 24 日, パシフィコ横浜)

佐藤 敦耶・松永 美希 (2024) . 高齢者におけるわりきり志向と目標への関与が精神的健康
に与える影響 日本認知・行動療法学会第 50 回大会ポスター発表 (2024 年 9 月 24 日,
パシフィコ横浜) *ダイバーシティ推進研究ポスター賞 銅賞受賞

成澤 理央・松永 美希 (2024) . 見捨てられスキーマと抑うつに関連——再確認傾向を介し
た影響に着目して—— 日本認知・行動療法学会第 50 回大会ポスター発表 (2024 年 9 月
24 日, パシフィコ横浜)

<新聞・その他>

「正月病」で気持ちが落ち込む、体がだるい、眠れない 不調を招く三つの理由 帰省も一因
に…対策は？ 読売新聞オンライン yomiDr. (2025 年 1 月 3 日掲載)
<https://www.yomiuri.co.jp/yomidr/article/20241223-OYTET50014/>

<研修会講師等>

富士見市 ゲートキーパー養成講座 ステップアップ研修講師 (2024 年 6 月 28 日, 富士見
市針ヶ谷コミュニティセンター)

新座市 ゲートキーパー養成講座 講師「すぐ実践できる！心に寄り添う聴き方・話し方」
(2024 年 10 月 6 日, 新座市保健センター)

志木市精神保健家族教室 講師 「自分も相手も大事にするコミュニケーション～大事な人と
良い関係を築くために～」 (2024 年 11 月 6 日, 志木市健康増進センター)

日本認知・行動療法学会 認知・行動療法コロキウム '24 in Tokyo コメンテーター 『20
代大学生の社交不安症への認知行動療法の症例報告』(2025 年 3 月 1 日, 中央大学茗荷谷
キャンパス)

集団認知行動療法研究会 令和 6 年 (2024) 度中級研修会 講師

「基礎から中級へ！明日から使える 7 コラム法実践のコツ〜グループとセラピスト自身の活かししかた〜」 (2025 年 3 月 9 日, NTT 東日本関東病

■宮川麻理子

<研究発表>

宮川麻理子、「言葉という潜在的ダンス——大野一雄の蔵書への書き込みより」公開シンポジウム「舞台におけるヴァーチャル」、主催：心理芸術人文学研究所、2024 年 11 月 17 日、立教大学池袋キャンパス。

<企画立案・運営>

【連続開催】舞踏家カルロッタ池田をめぐるタベ--立教大学 2024 年度招へい研究員マエヴァ・ラモリエール氏による講演会とレクチャーパフォーマンス、主催：心理芸術人文学研究所

公開研究会「カルロッタ池田、すなわち女性(複数)形の怪物的なもの--1977 年から 2014 年、フランスにおけるあるダンスの軌跡 《Carlotta Ikeda, un monstrueux au(x) féminin(s). 1977-2014, retour sur un parcours chorégraphique en France. 》」、2025 年 2 月 20 日、立教大学新座キャンパス。

公開レクチャーパフォーマンス《Looking for Carlotta》2025 年 2 月 27 日、立教大学新座キャンパス。

<その他>

宮川麻理子、「関かおりの 2021-2023 年度の活動について」『The Saison Foundation Annual Report 2023(2023 年度事業報告書)』公益財団法人セゾン文化財団、2024 年 10 月、pp. 38-39。

宮川麻理子、新刊紹介「中谷森『シェイクスピアと日本語 言葉の交通』」『ニューズレター REPRE』52、2024 年 10 月、<https://www.repre.org/repre/vol52/books/sole-author/5/>

宮川麻理子、劇評「横山彰乃 1al banshees『幽憬』another ver.」『紙背 WEB』2024 年 12 月、https://shihai2023.studio.site/h7XpozYG/miyagawa_yukei

宮川麻理子、劇評「振り付けられていない身体はどこにあるのか？ 高橋春香『正しい箸の使い方(あるいは拡張するマインドマップ)』レビュー」『おどりよむ』2025 年 2 月、<https://yokohama-dance-collection.jp/magazine/4903/>

■宮本裕子

<学会発表>

須川 亜紀子、石田 美紀、宮本 裕子、米村 みゆき

「アニメーションと女性」、日本アニメーション学会第26回大会、2024年8月24日、佐賀大学。

<その他>

宮本裕子「『千年女優』とビデオ：メディウムのアナロジー」、MACC、2024年6月12日、
<https://macc.bunka.go.jp/4746/>。

宮本裕子「色で感受すること——『きみの色』の共感覚」、MACC、2024年10月18日、
<https://macc.bunka.go.jp/5182/>。

宮本裕子、岩井澤健治「『音楽』上映後トーク」、新潟国際アニメーション映画祭、2025年3月16日。

■山田達也

撮影担当作品（劇映画）

『光る川』（2024 製作 日本/カラー/108 分）

脚本 監督：金子雅和

共同脚本：吉村元希

音楽：高木正勝

撮影：山田達也

原作：松田悠八（「長良川 スタンドバイミー一九五〇」より）

製作：長良川スタンドバイミーの会

制作プロダクション：プロジェクト ドーン

配給：カルチュア・パブリッシャーズ

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会

2025年3月より公開。全国36劇場にて上映、上映中、上映予定
（2025年5月現在）

- 第 45 回ポルト国際映画祭（ポルトガル）
オリエントエクスプレス部門最優秀作品賞 受賞
- 第 62 回ヒホン国際映画祭（スペイン）
ユース審査員最優秀長編映画賞 受賞
- 沖縄環太平洋国際映画祭 2025
コンペティション長編部門 ノミネート

■横山太郎

<論文>

Pellecchia, Diego and Taro Yokoyama, eds. "8. Reception." In *A Companion to Nō and Kyōgen Theatre, Vol. 2*, edited by Reiko Yamanaka et al., 669-725. Brill, 2024.
(Sections authored: "8.1. Introduction" [trans. Diego Pellecchia], 669-671; "8.5. Nō and Contemporary Theatre Abroad and in Japan" [with Diego Pellecchia], 694-707; "8.6. Why Not Nō?" [with Reginald Jackson], 707-725.)

Yokoyama, Taro. "6.7 Modern Theories of Nō." In "6 Treatises and Criticism," edited by Kyo Tamamura and Shelley Fenno Quinn. In *A Companion to Nō and Kyōgen Theatre, Vol. 2*, edited by Reiko Yamanaka et al., 563-569. Brill, 2024.

横山太郎、能の作者であるとはどのようなことか——古作能の流動性について、『観世』91 巻 6 号、28-33 頁、2024 年 11 月。

<研究発表>

横山太郎、私たちは能舞台に何を想像するのか——物語と修辞のあわせ、立教大学心理芸術人文学研究所シンポジウム「舞台におけるヴァーチャル」、於立教大学、2024 年 11 月 17 日。

<公開講演>

横山太郎、『武文』プレトーク、国立能楽堂、2025 年 3 月 28 日・29 日。

横山太郎・金井雄資・宝生欣哉、野村萬斎、令和 7 年 1 月特別公開講座 復曲能「武文」再演にあたって、国立能楽堂、2025 年 1 月 9 日。

横山太郎、『望恨歌』の能としての特質——夢幻能ではないことをめぐって、東京大学韓国学研究所センター主催「韓国・日本・琉球の伝統芸能と現代社会」、於東京大学、2024 年 5 月 25 日。

<解説文>

横山太郎、「武文」改訂について、『国立能楽堂』492号、31-33頁、2025年3月。

横山太郎、『武文』再演について、『あぜくら』699号、6頁、2025年2月。

横山太郎、荒磯 GINZA 能公演解説「春日龍神」「葛城 大和舞」「舍利」、荒磯 GINZA 能公演パンフレット、2024年11月23日。

横山太郎、荒磯 GINZA 能公演解説「忠度」「半蔀」「車増」、荒磯 GINZA 能公演パンフレット、2024年6月22日。

<文献紹介>

横山太郎、研究展望 2021年（令和3年）その他、『能楽研究』49号、2025年3月。

<シンポジウム企画>

横山太郎、能楽学会東京例会シンポジウム『『能十番』を読む——いとうせいこう氏を迎えて』企画・司会、於法政大学、2025年1月31日。

横山太郎・松田正隆・砂連尾理・宮川麻理子、心理芸術人文学研究所シンポジウム「舞台におけるヴァーチャル」企画・運営・司会、於立教大学、2024年11月17日。

<舞台公演協力>

横山太郎、国立能楽堂特別企画公演復曲能『武文』（2025年3月28日・29日上演）における台本・演出検討、2024年1月-2025年3月。

横山太郎、マキシム・キュルベルス演出『OKINA』（フェスティバル・ドートンヌで2024年10月17-19日に上演）への学術的助言、2024年7月19日、10月4日。

<メディア報道>

横山太郎、能「武文」36年ぶり新演出で、読売新聞夕刊、2025年3月18日。（新聞報道）

横山太郎、新ジャポニズム 第2集 J-POP “ボカロ” が世界を満たす、NHK スペシャル、2025年3月16日。（テレビ放送コメンテーター）

横山太郎、日本文化のそのあした、コマラジ（狛江市コミュニティFM）2024年6月17日。（ラジオ放送ゲスト）